

俳句

倒れぬやう括しままに菊咲けり
中野 千賀子
薄紅葉せせらぎ聞こゆ湯治宿
綿引 英子
木の肌を蟻の急げる暑さかな
飯田 勇一
初紅葉浜街道の晴れて来し
竹内 幸子
里山の色深まれる昼寢覚
田口 勝元
余生なほ一日一句秋深む
寺門 孝子

文芸しろさと

短歌

秋そばの花一面に咲き満ち
て広き畑は白波のごと
佐川 あや
原爆投下から七十五年永久
の平和を吾は祈りぬ
所 美恵子
庭隅に小さく土盛れるトコ
の墓幾度行きて幾度泣けり
渡辺 千紗子
窓の辺に置く鉢植ゑの菊の
花つぎつぎ咲きて心のみぬ
山形 式妙



川柳



朝食は夕餉の残りカレー食べ
富田 多蔵
街の中若者ばかりのシルバーク
車田 綾子
「見られてる」泣かずがなんぼ草刈機
飯村 孝一

掌に砂糖と梅干し頂きし昔
の馳走思ひ出だせり
杉山 みちこ

彼岸花群れて咲き盛る氏神
の林の中に幼日還る
大森 久子

うらやまの高きに登りながめた
る茨鉄機関車はまぼろしのなか
島 愛子

飛行機の窓から望む雲海に
煌めく光が我が目をうばう
信田 育子

コロナ禍で不安は消えず去年
までの当り前なる日常を恋ふ
富田 佐智子

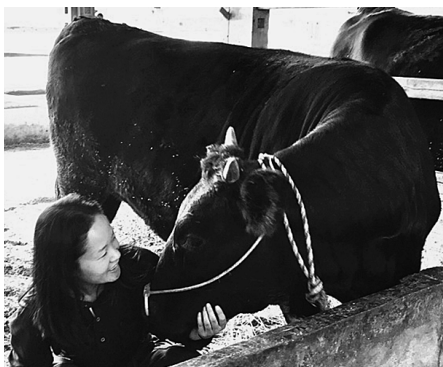


彼岸明け亡父に伴われし如
逝きぬ亡母の命日秋桜の頃
萩谷 登喜子
目の前の道路を走る車見て
その少なさにコロナを感じず
富田 欽子
死ぬための命などなし生きる
ため命はありぬ三人の変死
矢次 洋平

しろさとまち通信 地域おこし 通信

一城里町地域おこし協力隊 Vol.55

城里町地域おこし協力隊の連載、11月号は
近藤友香が担当します！



▲アゴを撫でてあげると喜びます

農業政策課地域おこし
協力隊の近藤友香です。
夫と共に肉牛の繁殖農家
として独立を目指してい
ます。昨年、未経験から
スタートした牛飼いの、
たくさんの方のご協力を
得て、最初は大きな牛が
少し怖かったけれど、今
では牛にもすっかり慣れ
て、楽しく充実した毎日
を過ごしています。

さて、今回はわたしの
過去にまつわるエピソード
をひとつ紹介したいと
思います。実は私、二十
代半ばまで動物全般がと
ても苦手でした。幼いこ
ろ放し飼いの犬に追いか
けられた恐怖を長いこと
克服できず、恥ずかしな
がらペットのいる友人宅
には入室できないほどの
体たらくです。

このエピソードの学び
は「好きは人を動かす」「人
は変われる」「仲良くなる
には、相手の立場で、ゆっ
くり優しく丁寧に」でしょ
うか。自戒を込めて、こ
こに記したいと思います。

問合せ

農業政策課

☎029-288-3111 (内線253)